

教育学部教育学科 幼児教育保育コース

1. 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)

教育学部幼児教育保育コースは、社会の急激な変化の中で、子どもをとりまく多様な現代的課題に、幅広い視野で俯瞰的に捉え、幼児教育の基本である環境を通して行う教育と幼児一人一人に適した学びを追究します。

未来を拓く子どもたちのために、保育者としての専門的知識・技能の習得、省察と研鑽による実践力・指導力の向上を図り、子どもの学びと育ちを促す支援やケアのあり方を生涯にわたって学び続け、「いい先生」とは何かを問いながら、社会や学校・保育施設等にて、協働の力、ファシリテーション力を発揮して活躍できる幼稚園・保育所・認定こども園の保育者養成を目的とします。

保育者としての専門的な学びを修得する上で、卒業時までには学生が身につけるべき資質・能力は、以下の3点です。

1) 多様な子どもをとりまく現代的課題に対応する力

多様な立場、考え方の存在を認め、強い意志と情熱および保育者としての使命感や責任感を持って、子どもの個々の内面的なニーズを共感的に理解し、子どもの学びと育ちに関わり、取り組むための「子ども理解」に関する専門性を獲得する。

2) 幼児期の特性を踏まえ、一人一人のよりよい学びと協同的な学びを実現する専門的な知識と実践力を追求する力

多様な社会、施設・学校等において、子ども一人一人の興味・関心を引き出し、子どもの課題に応えるために、直接的体験を重視し、ICTの効果的な活用も取り入れながら実践的指導力の獲得をめざして協働で取り組み、粘り強い省察・研鑽の力を獲得する。

3) 変化する社会、保育施設等で活躍するための包括的な協働の力

急激に変化する環境の中で、すべての子どもの可能性を引き出すために、チームの一員として、多様な人々と協働で課題解決を図り、持続可能な解決を遂行する力や種々の活動を繋ぐ横断的なファシリテーション力を身につける。

以上、保育者として、未来を担う子どもの学びと育ちを支援し、ケアするために、「子ども理解の専門性」と「教科・領域の専門性」を身につけ、「協働」の力を発揮する保育者養成に取り組めます。

2. 「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

(1) 教育課程の編成、教育内容

【教育課程の編成】

保育者は子どもの将来を担う重要な存在であり、卒業後、保育・教育現場において、幼児の教育・保育の指導を行う職務を担うことができる保育者として必要な資質・能力を身に付け、「学び続ける保育者」になることを重要課題として教育課程を編成します。

教育学科幼児教育保育コースでは、幼稚園・保育所・認定こども園等の各施設の保育者養成を目的としたカリキュラム編成を行います。

幼稚園教諭一種免許状・保育士資格・小学校教諭一種免許状の取得を基本的な考えとし、就学前の教育・保育から小学校教育への連続性を理解した保育者を養成することを目標に編成をします。

【教育内容】

教育学科幼児教育保育コースでは、ディプロマ・ポリシーに基づく保育者としての専門的知識および実践力、指導力を備え、就学前の教育・保育から小学校教育への連続性を理解した保育者を養成するための教育課程を編成します。幼児教育・保育の基本である遊びを通じた総合的な指導について修得するとともに、保護者と協働して子どもの発達を支援する専門性を身に付けるための科目を配置します。

- 1) 教育・保育の本質や目的に関する科目として、「教育原理」「保育原理」「子ども学概論」「子ども家庭福祉」「保育者論」などの科目を配置します。
- 2) 教育・保育の対象の理解に関する科目として、「保育の心理学」「子ども家庭支援の心理学」「幼児理解（教育相談を含む）」「子どもの保健」「多様な子ども理解入門」などの科目を配置します。
- 3) 教育・保育の内容・方法・指導法に関する科目として、「幼児教育課程総論」「保育内容総論」「保育内容の理論と方法（健康）」「保育内容の理論と方法（人間関係）」「保育内容の理論と方法（環境）」「保育内容の理論と方法（言葉）」「保育内容の理論と方法（表現）」「子どもと遊び」「音楽実践演習（器楽）」などの科目を配置します。
- 4) 教育・保育現場での実践力を高める科目として、「インターンシップ」「保育インターンシップ」「教育実習」「保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」などの科目を配置します。
- 5) 小学校での教科内容や指導法に関する科目として、「教科内容論（国語）」「教科内容論（生活）」「初等算数科教育法」「初等音楽科教育法」「道徳教育の理論と方法（小・中・養）」などの科目を配置します。

(2) 教育方法

- 1) 主体的・対話的で深い学びを実現するため、授業では、講話のみならずグループワーク等を取り入れ、課題追求に向けたディスカッション、グループ発表を行うなど、双方向的な授業を展開します。
- 2) 保育実践力の育成に向け、模擬保育室を利用した模擬保育の実施や視聴覚教材等を活用した保育実践の具体化を行い、学修方法の改善に努めます。
- 3) 最新の教育・保育現場の情報の把握、幼稚園・保育所・認定こども園・児童福祉施設等での保育者の役割等の理解を図るため、「大学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「や「教育基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を中心に、本学の卒業生の現役保育者などを招聘し、講習会やセミナーを実施します。
- 4) 幼稚園・保育所等施設での実践的な学びを推進するため、2年次・3年次の教育保育実習に加え、1年次に「ハローナーサリー」（保育所・認定こども園での体験）、2年次にインターンシップ（幼稚園等でのインターンシップ）、「保育インターンシップ」（保育所等でのインターンシップ）、「教育基礎演習Ⅰ・Ⅱ」で「模擬授業」などを実施し、幼稚園・保育所等での教育・保育活動に積極的に参加し、実践的な学びを推進します。

(3) 学修成果の評価方法

- 1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。
- 2) 定期試験、小テスト、課題レポート等の提出、授業への参加態度や意欲、学生による授業評価等により、授業目標への到達度を総合的に評価します。
- 3) 評価観点とレベルを示したルーブリックの活用を図るとともに、学修の状況や課題追究の過程をパフォーマンス評価します。
- 4) 授業・保育・教育実習（保育所・認定こども園・施設・幼稚園）などの課題活動を通して、保育者として必要な資質・能力や適性を評価します。
- 5) 学修ポートフォリオ（目標・自己評価、履修カルテ等）および上記2）～4）をもとに、担任教員との面談等を通して自己省察を促すとともに、次の目標設定や学習方法の改善を図ります。

3. 「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)

教育学科幼児教育保育コースは、「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

1) 強い意志と情熱を持って専門的に学びながら「めざす保育者像とは」、と問い続けていく人。また、子どもを一人の人間として尊重し、一人一人の子どもの「心もち」に寄り添い、発達課題に応じた支援やケアを考えようと努める人。

〔求める要素：関心・意欲・態度〕

2) 本学の専門分野を学ぶために、高等学校等で習得すべき基礎学力を有し、教育・保育についての学びや実践を、子どもの育ちや子どもが育つ家庭環境や地域社会の状況を考え、広い視野から現代の教育・保育課題を捉え、教育保育活動に活かしてしていこうと努める人

〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力〕

3) 他者や社会との対話を通して自己の考えを表現し、豊かな人間関係を築きながら協働の力を発揮しようと努める人。また、探究心と洞察力を持ち、新しい課題にも果敢に挑戦し、実践力、指導力を身につけようと努める人

〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕